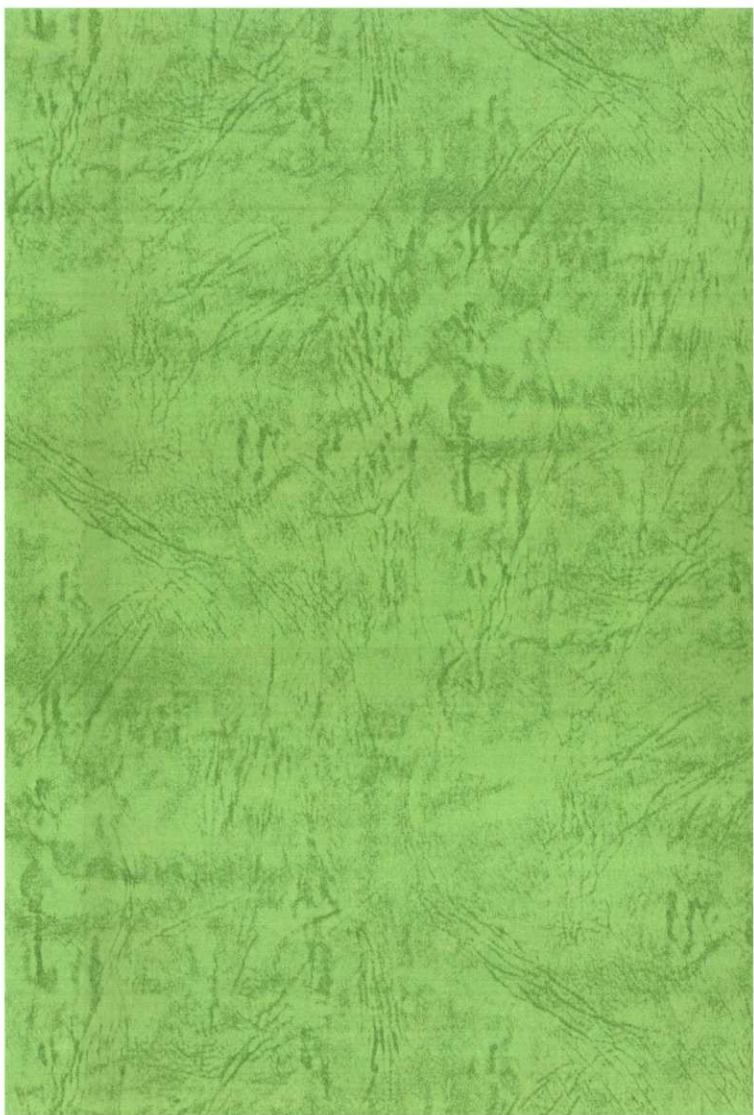


—平成21年度発掘調査報告—

埋蔵文化財調査報告書

兵庫県神崎郡
福崎町教育委員会

2011



—平成21年度発掘調査報告—

埋蔵文化財調査報告書

2011

兵庫県神崎郡
福崎町教育委員会

平成21年埋蔵文化財調査

目次

目次・図版目次・写真目次	1
あいさつ・例言	2
遺跡地図	3
1 南田原条里遺跡周辺調査	4
2 平成21年度西治地区ほ場整備地区	5~15
3 北野散布地遺跡	16

図版目次

図版 1	調査場所位置図
図版 2	南田原条里遺跡周辺調査 調査場所位置図 (1/20000)
図版 3	南田原条里遺跡周辺調査 詳細図
図版 4	平成21年西治地区ほ場整備調査 調査場所位置図 (1/20000)
図版 5	平成21年西治地区ほ場整備調査 調査区 (1/5000)
図版 6	西治二反田遺跡調査 参考土層図 (1/200)
図版 6	平成21年西治地区ほ場整備調査 土層図 (1/200)
図版 7	平成21年西治地区ほ場整備調査 土層図 (1/200)
図版 8	平成21年西治地区ほ場整備調査 土層図 (1/200)
図版 9	平成21年西治地区ほ場整備調査 土層図 (1/200)
図版10	平成21年西治地区ほ場整備調査 地形図と字限図の複合図
図版11	北野散布地遺跡調査 調査場所位置図 (1/10000)
図版12	北野散布地遺跡調査 土層図 (1/200)

写真目次

南田原条里遺跡周辺調査	17
平成21年西治地区ほ場整備調査	17~24
北野散布地遺跡	24

調査箇所	所在地 (図1)	地図番号
南田原条里遺跡周辺調査	ひょうごけんかみづきぐんあそ町まきやまのまちなかしき ほん 兵庫県神崎郡福崎町南田原中高734番	1
西治地区ほ場整備調査	ひょうごけんかみづきぐんあそ町まきやまのまちなかしき ほん 兵庫県神崎郡福崎町西治字新田89番	2
北野散布地遺跡	ひょうごけんかみづきぐんあそ町まきやまのまちなかしき ほん 兵庫県神崎郡福崎町西田原字広岡826番1	3
西田原堂ノ前遺跡	ひょうごけんかみづきぐんあそ町まきやまのまちなかしき ほん 兵庫県神崎郡福崎町西田原字堂ノ前1328番3・ はしづめ ほん ちくじんちようさ 橋詰1333番6 (確認調査なし)	4

あ い さ つ

包蔵文化財は、地域に埋もれた歴史を伝えてくれる大切な資料の一つです。

平成21年度より西治地区の大規模なほ場整備事業に伴い、試掘調査を中心に行っています。このあたりは、七種川や西谷川が流れており、現在でも梅雨や台風の際には、水の浸かるような低い土地になっております。

この地域は、昔の人々の様子を窺い知る考古資料が少ない地域でしたが、現在までに、新たに西治二反田遺跡が図書館建設時に発見され、遺跡の存在が明らかになってきました。今後、平成24年までに調査が進められていくこととなり、また新たな発見や祖先の足跡を垣間見ることができます。それぞれの成果をまとめることによって地域の歴史を一つ一つひもといていく貴重な資料となることをご理解いただければ幸いです。

調査にあたり、工事関係者の方々の理解と共に地元自治会等のご協力を得ました。厚くお礼申し上げます。最後に、得られた成果は今後地域の子どもたちや生涯学習の場において広く活用し、身近な郷土の歴史を知り、自分たちの存在を感じ、自分たちの故郷をいつまでも大切に思う豊かな心を育てることができるよう多くの方々に還元したいと思っております。

平成23年3月

福崎町教育委員会
福崎町教育長 高寄 一郎

例 言

1. 本書は、平成21年度に行った、包蔵地内の確認調査と西治地区のほ場整備事業に伴い試掘調査を行った発掘調査報告書である。
2. 調査は、福崎町の依頼を受け福崎町教育委員会が主体となり実施した。
3. 経費は、国庫補助金で実施した。
4. 各年度の調査体制は以下の通りである。

平成21・22年度

調査・整理事務局

報告書担当

教 育 長 岡本 裕・高寄 一郎

文化財専門員 古田 陽

社会教育課長 山下 健介

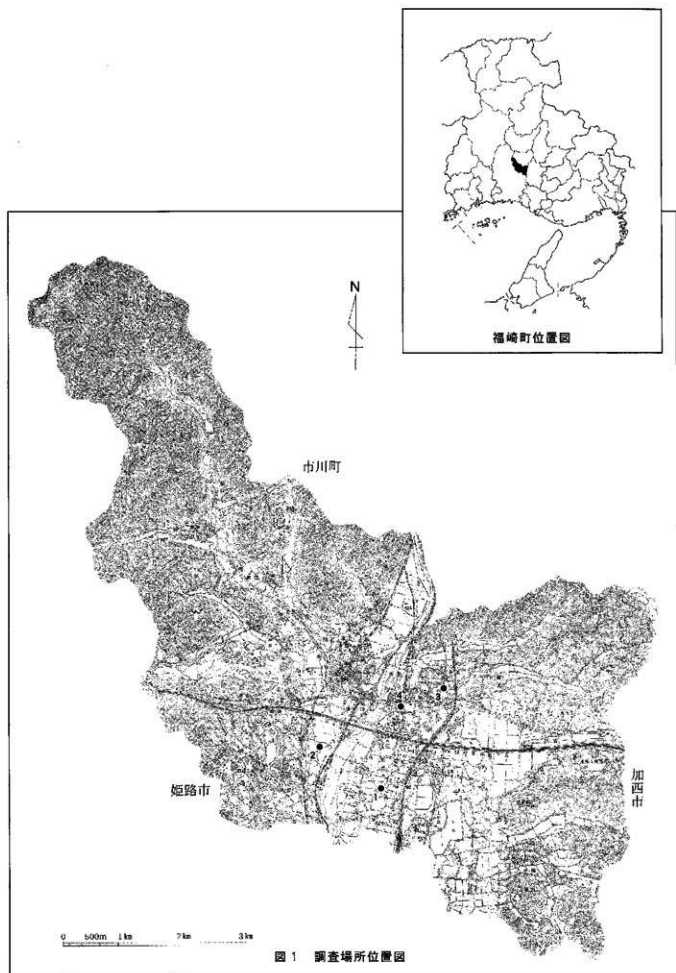
整 理 作 業 員 梶 智美

社会教育課課長補佐 吉田 利彦

文化財担当 林 彰彦・出田 直

整理作業は、古田が担当し、梶の補助を得た。

5. 挿図中に使用している方位は基本的に磁北を示している。
6. 本書の執筆は、林・出田が行い、内容加筆・編集・まとめを古田が行った。
7. 遺構製図は主に古田・梶が行い、写真は林が撮影した。
遺物の洗浄・実測・製図、遺構の製図等は梶の協力を得た。
8. 現地調査作業には下記の方の協力を得た。(順不同・敬称略)
西井正実、城井直孝、牛尾明正、牛尾秀憲、牛尾寿一、松岡正夫、長谷川義信、村上由希子、藤原清尚、吉識雅仁、中島区、生田建設株式会社、福崎町産業課
9. 整理作業等に関して下記の方の協力を得た。(順不同・敬称略)
神崎郡歴史民俗資料館、福崎町産業課



1、南田原条里遺跡周辺調査

調査地区 神崎郡福崎町南山原

字中島734番

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 出田 直

調査期間 平成21年4月22日(水)



図2 調査場所位置図

○調査に至る経過

個人住宅の建設計画があり、南田原条里遺跡の範囲内として確認調査をしたが、包蔵外にあたり、試掘調査である。

○調査方法

既存建物撤去後に、1箇所(2m)の調査区を設け調査を行った。掘削には重機を用いた。壁面精査及び記録写真真図面作成は適宜行った。

○調査概要 周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、市川の氾濫原となる部分で高位氾濫原として位置付けられる場所である。南田原条里遺跡第10次調査の際に、弥生時代中期初頭～後期の遺構・遺物が確認された。その成果より集落跡の中心は、第10次調査の場所から南方の微高地域の場所と考えられた。他に、周辺の遺跡として同時期には、南田原長日遺跡、後期の南田原中野田遺跡、当遺跡内には、古墳時代の石棺が残されている。

土層状況

基本的な土層堆積の状況は、河原石を大量に含む暗茶灰色粘土質の堆積(地表面より5.5cm下まで)で、遺構・遺物とも確認されなかった。

まとめ

南田原条里遺跡周辺内ではあるが、遺構・遺物とも皆無であり、上部堆積の削平の可能性もあるが、現況は、西側の低位段丘からやや下がる部分であり、高位氾濫原になる現況では遺跡の存在は判然としない。遺跡の中心に近いと考えられるが、現況ではその存在は判然としない。



図3 詳細図

2、平成21年度西治地区ほ場整備調査
調査地区 神崎郡福崎町西治字西新田89番
ほか
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 林 彰彦 出田 直
調査期間 平成21年10月5日(月)
～11月10日(火)



図4 調査場所位置図

○調査に至る経過

過去、下水道処理施設並びに図書館建設の際に試掘調査を行った結果、西治・反田遺跡が確認され、西治地区にも未知の遺跡の存在が考えられた。試掘調査の結果、微高地状地形から遺跡が確認されるという傾向も確認でき、ほ場整備に伴い

土地区画整理が行われることから事前に調査を行い遺跡の有無を確認する必要があるが生じた。

ほ場整備は、平成21年12月から平成24年3月にかけて行う予定になっており、この計画中に数年に分けて工事を行う予定となっている。耕作物の関係から影響を及ぼさない方法を、土地改良事務所をはじめ地元の土地改良区との協議の結果、工事着工前の区間を前年度に調査し、その取り扱いを協議することとなった。

平成21年8月24日付けで遺跡の有無の所在照会が姫路土地改良事務所から提出され、それに伴い試掘調査の時期と方法、予算の負担等を協議し平成21年10月5日から11月10日にかけて現地調査を行った。

○調査方法

耕作土及び埋上を重機で掘削し、壁面及び遺構は人力で精査した。壁面調査及び記録写真図面作成は、適宜行った。

○周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、七種川や西谷川の氾濫原となる部分で低位氾濫原と位置づけられる。集落の南部分の高台は段丘面に属する。

西治は、古くは、「再地」と言われており、中世の南北朝期には、「さいち」という地名が、『広峰文書』や『肥塚文書』に見られる。(注1)

西治には、八幡神社が、西谷に大歳神社があり、寺院としては、永享2年(1429)に赤松満祐の祈願所として天台宗青竜山観音寺が創建された。また、日蓮上人が書いた原稿の一部が伝存する日蓮宗蓮華寺がある。(注2)

近世には、豊臣氏が蔵入地とし、慶長5年(1600)から姫路藩の領土となり、寛永年間頃に、西谷村が西治村から分村した。明暦4年(1658)の西治村の明細帳から、村の石高が隣接村より比較的大きく、人口も456人とかなり多くみられる。また江戸中期全国的にも新田開発が激増し、小字名として残る例も多く西治も同様に残る。(注3) 寛延3年(1750)の明細帳には、畑作物の種類が豊富になり、肥料に干鰯や金肥が用いられていることから貨幣経済の浸透が窺える。また日雇いとして、姫路城下への薪売りをしており(注3)、人の往来も想定できる。

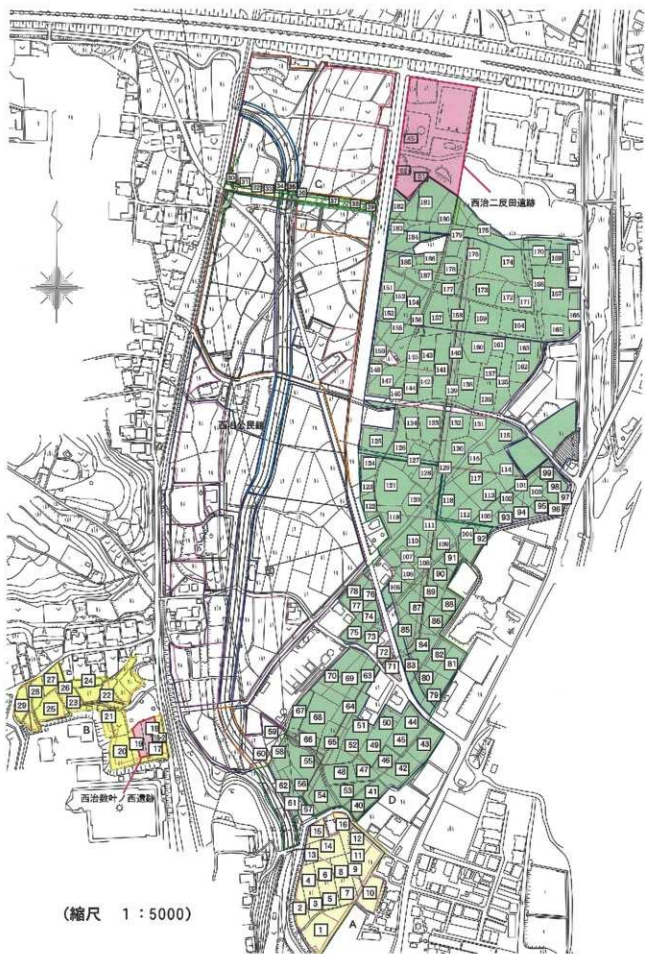


図5 平成21年度 西治地区ほ場整備調査 調査区

発掘調査成果からは、平成15年度に西治二反田遺跡が図書館建設の際に確認され、弥生時代から中世にかけての遺物が出土し、周辺の微高地状地形に遺跡が広がることが考えられた。

その他には、古墳時代後期の小円墳が円光寺山古墳、円光寺山西古墳、三味谷古墳群として知られているのみで、他の遺跡は知られていない。しかし、南側の高橋区には高橋古墳群や奈良時代の祭祀に伴う遺跡と考えられる檜谷遺跡などが知られており、西治地区を考える上でも意義深いものがある。

ただ、西治二反田遺跡の存在から弥生時代の集落の存在や古代から中世にかけての遺跡の存在はもとより古墳の存在から古墳時代の集落跡も西治地区から発見される可能性は持ち合わせており、今後の調査の進展により新たな史実がわかり得るものと期待される。

○試掘調査概要

調査対象面積は、開発予定面積296,847.61㎡中約157,800㎡となり、その中に186箇所の試掘のための調査区を設けた。1ヶ所あたり約4㎡であることから、調査面積は約744㎡となる。

調査区の概要

平成21年度工事の区域と平成22年度工事の区域を試掘調査した。

調査区1～16は低位氾濫原に位置する場所を調査区Aとし、調査区17～29は段丘面に位置する場所を調査区Bとする。

平成22年度工事の区域の内、道路建設予定地を調査区30～39として低位氾濫原に該当する場所調査区Cとする。

他の平成22年度工事区域については調査区40～187として低位氾濫原の場所を調査区Dとする。

それぞれの調査区をA、B、C、Dと大きく便宜上分類し、それぞれの傾向を示すと共に個々の調査区の概要を示し、最後にまとめとしたい。

土層について

土層を重視しており、平面の精査が十分に行っていない部分があると、調査担当から聞いている。

○調査区A

低位氾濫原に位置する場所であり、基本的な土層は、耕作土、床土と埋土をはさみ下層に砂質土や砂層が堆積している。ここからは、基本的に遺物遺構は確認されなかった。

○調査区B

他の地点より段丘面とやや斜面状に位置し、舌状に伸びる尾根状地形の部分とそれにはさまれるような形になっている谷地形のところも含んでいる。

段丘面は調査区17～21、谷地形は調査区22～29に分けることが出来る。谷状になっているとはいえ、地山面は段丘地形と同様になっており、深さも地山面までは浅い位置で確認できる。基本的な土層は耕作土と床土のすぐ下に地山が広がる。

○調査区C

調査区Cの北東側には西治二反田遺跡が存在し、そこからの流れ込みによる遺物が確認される可能性をもつ場所でもあった。基本的な土層は、耕作土の下層に一部堆積土が確認され氾濫原の堆積へと続く。床土は他の調査区では黄色系の堆積が多いがここでは床土と

して認識される上においても茶系色の堆積が確認されている。

調査の結果、調査区37、39から遺物の出土はあったものの、近世以降の遺物であり、西治二反田遺跡から出土した遺物とは明らかに時代が違い、そこからの流れ込み等による遺物の出土ではないと考えられ、直接関連すると思われる遺物の出土状況は確認することが出来なかった。

○調査区D

調査区40は調査区Aの調査区16の北側に位置している。この調査対象地内には西治の埋墓に該当する墓域があり、向墓制が色濃く残る場所が見られる。その場所は、この中でも高い場所にあり、島状に存在しているのである。この周辺にも墓域に関連するような遺構が存在する可能性も考えられた。また、西治二反田遺跡に関連する包含層的な土層も確認される可能性もあり、新たな遺跡の存在も考えながら調査を行った。基本的な土層は、耕作土、床土と埋土をはさみ下層に砂質土や砂層が堆積している。

○遺構

明確な遺構は調査区18で確認された溝状遺構のみである。耕作土と床土があり、直下は黄色粘質土の地山面である。調査区18は2回確認のために掘削したが、1回目は遺構面がわかりにくく壁面で遺構を確認するにいった。

調査区18-1は、溝状遺構の幅は、約1m弱である。そこから中世の上師器・須恵器の遺物と炭が混じっており、人為的活動が周辺で行われた可能性がある。遺構の大きさは、幅約90センチ深さ20センチを測り、南東～北西に伸びることが確認された。

調査区18-2では、全体に黒く暗灰色のやや粘土質土が堆積しており、重機で一部掘り下げすぎて、遺構の確認はできなかったが、溝状遺構と同様の茶褐色土の埋土を持つ溝状遺構が確認された。調査区19でも同様の土質であった。

調査区18の南の調査区17・20は、削平を受けており、上部層が欠けており、地山の色がやや黄色味がかり地形的に少し高く、遺構は確認できなかった。

溝の性格は明確ではないが、地形的なことを考慮に入れると、集落と山地形との区画のための溝の可能性もあり高位からの水などが集落に入り込むのを防ぐための溝の可能性も考えられる。そのことを意識したとすれば、ここから北東方向に集落が形成されていた可能性がある。しかし、現在は道路となっており線路によって削平されてしまっており明確なことは判らない。また、道路や線路の建設時は遺跡としての認識もなく当時ここから遺物や遺構が確認されたという話は聞いていない。

少量の細片ではあるが遺物の存在から集落の存在は可能性が高く現在の集落も高位に形成されていることから、少なくとも中世から現在の場所に集落が形成されていた可能性がある。

現在の道路敷きから鉄道敷きあたりは字隈園（大正14年改訂）では、官道が通っており、人の往来があった。西治地区は、河川の氾濫が往々にあり、その中でも、官道が敷かれている部分は、斜面地となっており、水に浸かることもない部分のため、現在の集落域に中世の集落が展開する可能性があると考えられるが、ほ場整備予定地から外れている。

調査区18-1、18-2・19の範囲を包蔵地、西治敷叶ノ西遺跡となる。（図5）

○遺物

実測する程度の破片はなく、実測図はなし。調査区Bうち調査区18に小片であるが遺物の出土が見られた。中世の遺物と考えられ、土師器は皿であり須恵器は山茶碗と考えら

れるものである。遺構内埋土からは、少量ではあるが炭も出土した。

調査区Cのうち調査区37、調査区39から近世陶器と考えられるものが出土した。出土遺物が少ない場所でもあるので、旧耕作土や氾濫原の時代を考える上でも参考となるものである。

調査区Dのうち調査区52から中世の土師器の鍋の一部が出土した。旧床土からの出土であり、旧床土の時代的な判定の参考にもなり得るものである。

調査区124からは骨が出土した。この骨は、頭骨骨片や細かい骨が見つかっており、火葬されており、また土壌化が進んでいるにも関わらず、非常によく残存しており近世墓の可能性が高い。

骨は、墓穴のようなところに埋葬されていたようには見えず、骨の上に茶灰色土等が重なっている程度で、顕著な集石も見られなかった。しかし、墓としての状況が明瞭ではなく、掘り方であったり、集石があったりする状況が見られないことや検出された層が薄いことが気になる点であるが、上層の堆積の際、削平されたことにより現在のような状況になった可能性がある。

まとめ

調査区Aは低位氾濫原で遺構・遺物は見られず、遺跡として認識できる場所ではない。

調査区Bは段丘面で、調査区18で確認できたように中世の溝状遺構が確認できた。

ここから、周辺中世の遺跡が存在する可能性が高まった。しかし、主要な地域はほぼ場整備予定地から外れている可能性が高く、現在の道路敷きから鉄道敷きのあたりの可能性が指摘できる。また、現在の集落があるあたりも中世集落が存在した可能性があり、そのあたりを持って遺跡とすることが出来ると考えられる。ただし、新発見の遺跡として確実な場所は調査区18から調査区22を遺跡の範囲、西治敷叶ノ西遺跡とする。

調査区Cでは、近世の陶磁器があるのみで中世にさかのぼるものは見つかっていない。ここの北側には西治二反田遺跡が存在し弥生時代から中世にかけての遺物包含層等が確認されている。そこからの流れ込みによる遺物の存在もあると考えられたが、結果的に遺物の出土は見られなかった。西治二反田遺跡は調査区Cの範囲までは伸びてこないということがわかった。

調査区D調査区186付近で高位部が見られ、調査区186付近では三昧として認識されている部分であることが知られている。過去、西治二反田遺跡のように低位氾濫原の中にも微高地状地形が存在し、そこに遺跡が形成されているということが知られている。この調査範囲にも微高地状地形があり遺跡が存在する可能性も考えられたが結果的に遺跡の広がる微高地状地形は確認されなかった。

この範囲内でも、遺物は調査区52から中世の土師器が出土したのみで、あとは調査区124からの人骨の出土のみであった。土師器は、旧床土からの出土で旧床土のある調査区がいくつか確認されているが、旧床土は中世以前にさかのぼらないことが明らかであり、中世以降の堆積であることが明確になった。周辺の耕作地の状況から近世の開墾の可能性が高く、旧耕作土も近世以降の堆積の可能性が高い。

人骨に関しては、出土遺物が他になく、明確な時代はわからないが、調査区52の中世遺物の存在から骨に関しても中世以前にさかのぼるものではなくそれ以降の遺物と考えることができる。

最後に、両墓制について触れておく。両墓制は、遺体を埋葬する墓と詣るための墓を作り、一人に対して、2つの墓を作るという葬制である。実際に埋める墓を“埋墓”、お墓参りのための墓を“詣り墓”という。両墓制には、各地で様々な特色を持つが、近畿地方にのみ色濃く残るもので、中世末から近世期にかけて一般的となったようである。

近世までは、土葬を基本としていたが、現在は、火葬に切り替わりこれらの習俗がなくなったと言える。また全国的な例を見ると、埋め墓と詣り墓は、割と近くに存在することが多く、道を挟んで並び合う、または詣り墓がやや高い位置にあり、その下場に埋め墓が存在することが多い。

そしてこれら両墓制が発生した理由として、仏教との関連が強いと考えられるが、不明な点が多いとされている。代表的な例としては、死に対しての恐れや穢れ、遺体への恐怖感があり、遺体の埋葬地を出来るだけ人里から離れたところに設け、死者の供養は、身近な場所に石塔などを設けることにしたと考えられている。

今回、西治で見つかった人骨は、実際に埋められた埋め墓である。埋め墓は、多くは、土葬を基本とするが、西治の人骨は、火を受けており火葬を伴うものであった。またこのあたりを通称「ハカダ」と呼ばれることから、埋め墓の墓域の可能性がある。宇限図（大正14年改訂）にも墓の文字に二重のラインで消されており、近世墓の可能性が高い。

それに対して、字名として、「三昧谷」というのが残っているが、やや小高いところに位置し、一般的には、火葬施設や石塔墓のある詣り墓や埋め墓どちらにも使用されることが多い字名である。面白いことに、西治では、この「三昧谷」には古墳群があり、近代には、寺とお墓が存在しており、歴史的にお墓との関わりの深い土地である可能性がある。

同じく、調査区186付近も「三昧」として認識されるところがあり、こちらは、埋め墓の可能性が高く、宇限図(大正14年改訂)の中に墓地という文字が見られるものが存在する。

また、川を挟んで東側に南田原にある中島区とのかかわりを持つ六地藏が並び墓域との関わりを示唆する物となっている。「ハカダ」の存在はこの周辺にも墓域が存在した可能性を示し、その一部が調査区124で確認できたのかもしれない。

町史の地形図と宇限図（大正14年改定）も参考に載せておく。

これらの図は、事前調査時に活用でき、字名を見ると江戸時代の開田などの様子も読み取ることができる。これら遺跡を読み解く鍵となり、氾濫源地域も実際の調査と被る部分も見られ、事前調査に有効である。(図10)

※参考までに、図書館建設前の良好な土層を掲載しておく。(図6)

(注1：1989 『角川日本地名大辞典28 兵庫県』株式会社 角川書店)

(注2：1955 『地志 播磨鑑 (復刻版)』兵庫県教育委員会図書販売株式会社)

(注3：1990 『福崎町史 第二巻本文編Ⅱ』兵庫県福崎町)

両墓制について (：1969 柳田国男『定本 柳田国男集 第15巻』筑摩書房)

(：1991 新谷尚紀『両墓制と他界観』吉川弘文館)

宇限図(大正15年改訂 地籍地図参照)

町史の地形図(『福崎町史第三巻 付図1 福崎町地形・地質図』)

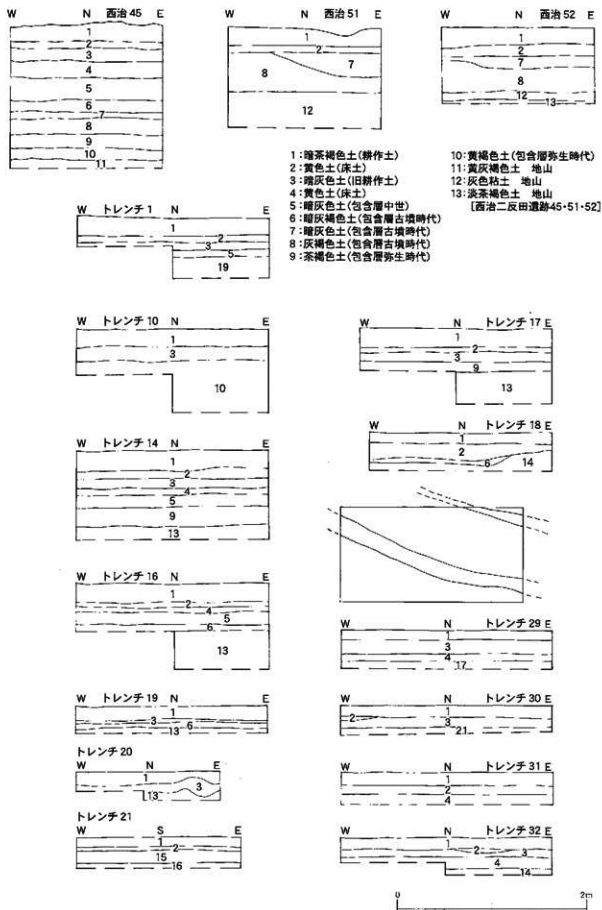


図6 土層図

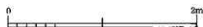
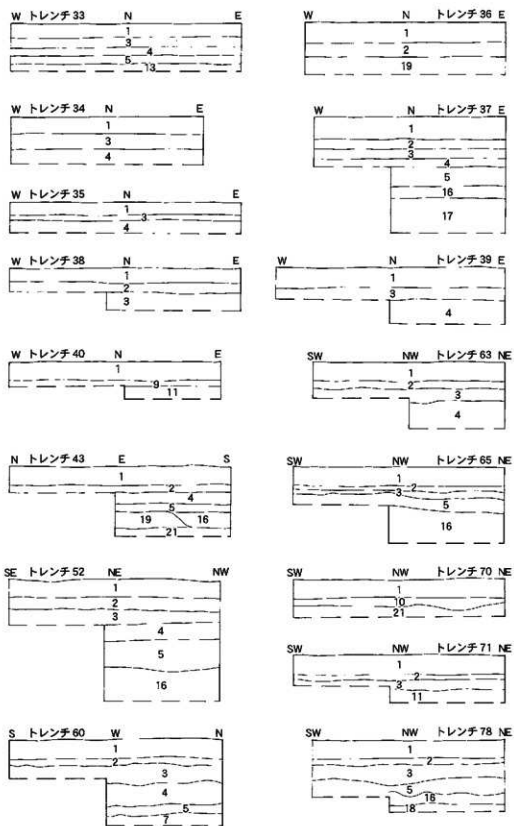


図7 土層図

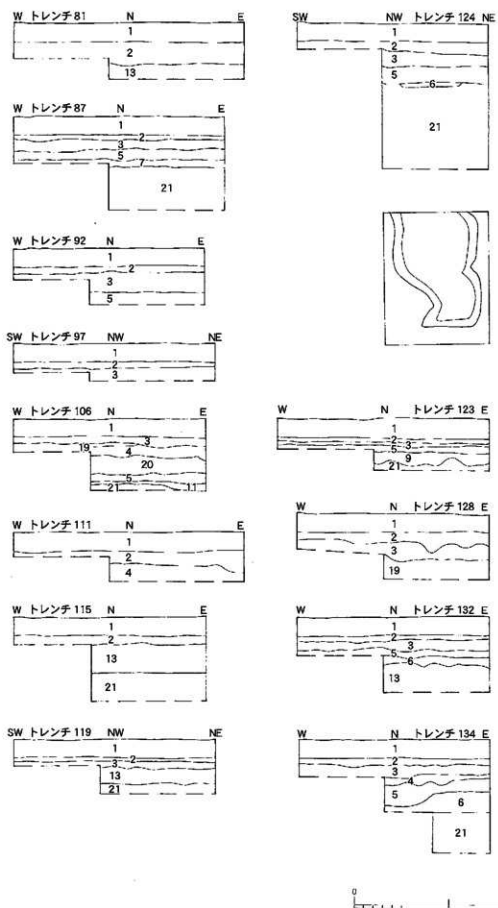
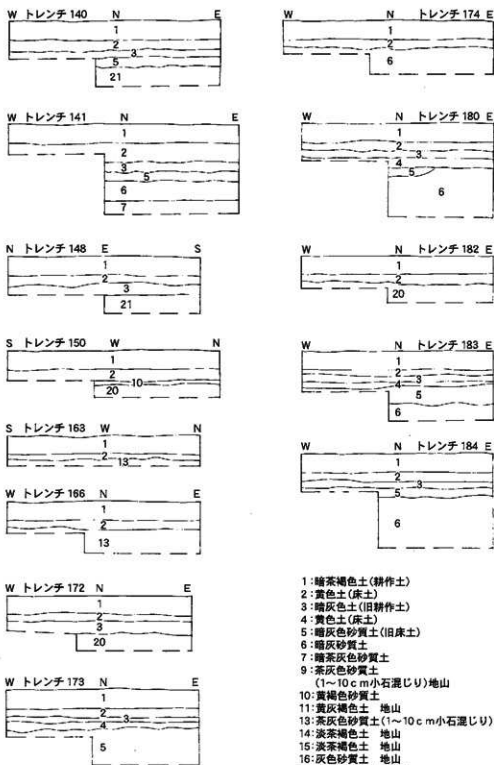


図8 土層図



- 1: 暗茶褐色土(耕作土)
- 2: 黄色土(床土)
- 3: 暗灰色土(旧耕作土)
- 4: 黄色土(床土)
- 5: 暗灰色砂質土(旧床土)
- 6: 暗灰砂質土
- 7: 暗茶灰色砂質土
- 9: 茶灰色砂質土
(1~10cm小石混じり)地山
- 10: 黄褐色砂質土
- 11: 黄灰褐色土 地山
- 13: 茶灰色砂質土(1~10cm小石混じり)地山
- 14: 淡茶褐色土 地山
- 15: 淡茶褐色土 地山
- 16: 灰色砂質土 地山
- 17: 茶褐色粘質土 地山
- 18: 灰色砂土 地山
- 19: 暗灰砂土
- 20: 砂質土
- 21: 灰色砂礫土 地山 [西治地区試掘1~184]
(8, 12は欠番)



図9 土層図

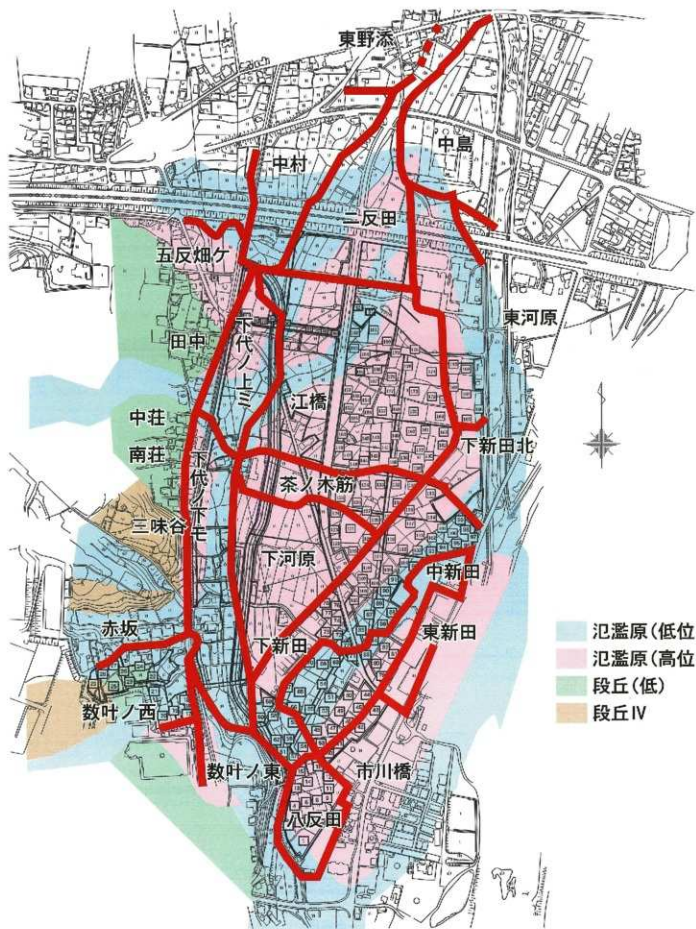


図10

3、北野散布地遺跡

調査地区 神崎郡福崎町西田原
字広岡826番地1

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 林 彰彦 出田 直

調査期間 平成21年12月8日(火)



図11 調査場所位置図

○調査に至る経過

個人住宅の建設計画があり、北野散布地遺跡の範囲内に含まれるため、確認調査の実施に協力を得て確認調査を実施した。

○調査方法

建設工事着手前に調査を行った。掘削には重機を用いた。壁面精査及び記録写真図面作成は適宜行った。

○調査概要 周辺の地理的歴史的環境

地形は、北西側に辻川山の裾部分にあたり、周囲には水田地帯が広がり南には津雲川が流れる低位段丘に位置付けられる場所である。

この遺跡は、弥生時代～近世にかけて遺物が顕著に散布する。北側には、北広岡遺跡、北東側には、妙徳山古墳を始め神積寺周辺には、平安時代から中世にかけての複合的な遺跡が展開している。

上層状況

基本的な土層堆積の状況は、旧水田跡が残る。が時期不明である。(地表面より75cm下まで)遺構・遺物とも明確には確認できなかった。

まとめ

北野散布地遺跡内ではあるが、遺構・遺物とも皆無で、遺物が散布しておらず、現況では、遺跡の存在は、判然としない。

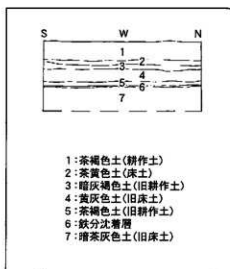


図12 土層図

写 真

南田原条里遺跡周辺



平成21年度 西治ほ場整備試掘調査



調査区10



調査区17



調査区18



調査区18-1



調査区18-2



調査区18-3

平成21年度 西治ほ場整備試掘調査



調査区18-4



調査区19



調査区20



調査区21



調査区29



調査区30



調査区31



調査区32

平成21年度 西治ほ場整備試掘調査



調査区33



調査区34



調査区36



調査区37



調査区38



調査区39



調査区40



調査区41

平成21年度 西治ほ場整備試掘調査



調査区43



調査区52



調査区60



調査区63



調査区65



調査区70



調査区71



調査区78

平成21年度 西治ほ場整備試掘調査



調査区81



調査区87



調査区92



調査区97



調査区106



調査区111



調査区115



調査区119

平成21年度 西治ほ場整備試掘調査



調査区124-1



調査区124-2



調査区126



調査区129



調査区132



調査区134



調査区141



調査区148

平成21年度 西治ほ場整備試掘調査



調査区150



調査区163



調査区166



調査区172



調査区173



調査区174



調査区175



調査区176

平成21年度 西治ほ場整備試掘調査



調査区178



調査区179



調査区180



調査区182



調査区183



調査区184

北野散布地



報告書抄録

ふりがな 書 名	まいごうぶんかざいはつくつちようさほうこくしよ 埋蔵文化財発掘調査報告書
副 書 名	平成21年度発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	福岡町埋蔵文化財発掘調査報告書10
シリーズ番号	10
編 著 者 名 編 集 機 関	福岡町教育委員会
所 在 地	〒679-2280 兵庫県神崎郡福岡町南田原3116-1 TEL : 0790-22-0560
発行年月日	2011年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あなまたら 南田原 しょうちけき 象鼻遺跡	ひょうごけんかんざいきんかくさきまち 兵庫県神崎郡福岡町 あなまたらなかま ほん 南田原中島734番	28443	410046	34° 56' 29"	134° 45' 18"	2009年 4月22日	4	個人住宅
さいじちく 西治地区は場 かいびしつづつ 整備試掘調査	ひょうごけんかんざいきんかくさきまち 兵庫県神崎郡福岡町 さいじあましんやん 西治字新田89ほか	28443	-	34° 56' 45"	134° 44' 41"	2009年 10月5日 5 2009年 11月10日	744	ほ場整備
きたのちく 北野地区散布 地遺跡	ひょうごけんかんざいきんかくさきまち 兵庫県神崎郡福岡町 にしむらあざひらぬか ほん 西田原字広間826番 1	28443	410113	34° 56' 54"	134° 46' 7"	2009年 12月8日	4	個人住宅
にしむらあざ 西田原字ノ前 遺跡	ひょうごけんかんざいきんかくさきまち 兵庫県神崎郡福岡町 にしむらあざのまえ 西田原字堂ノ前 1328番8・ ほん 橋詰1333番6	28443	410133	34° 57' 12"	134° 45' 34"	2009年 8月6日	-	個人住宅
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
さいじちく 西治敷叶ノ西 遺跡	散布地	中 世	溝状遺構	須志器輪・土師 器皿	遺跡番号410137 北緯 34° 56' 43" 東経134° 44' 30"			
要 約	低位氾濫源地域で、中世の溝状遺構を確認した。そこから中世の土師器・須志器と 炭が混じっており、人為的な活動が周辺で行われた可能性がある。							

2011年3月10日 印刷

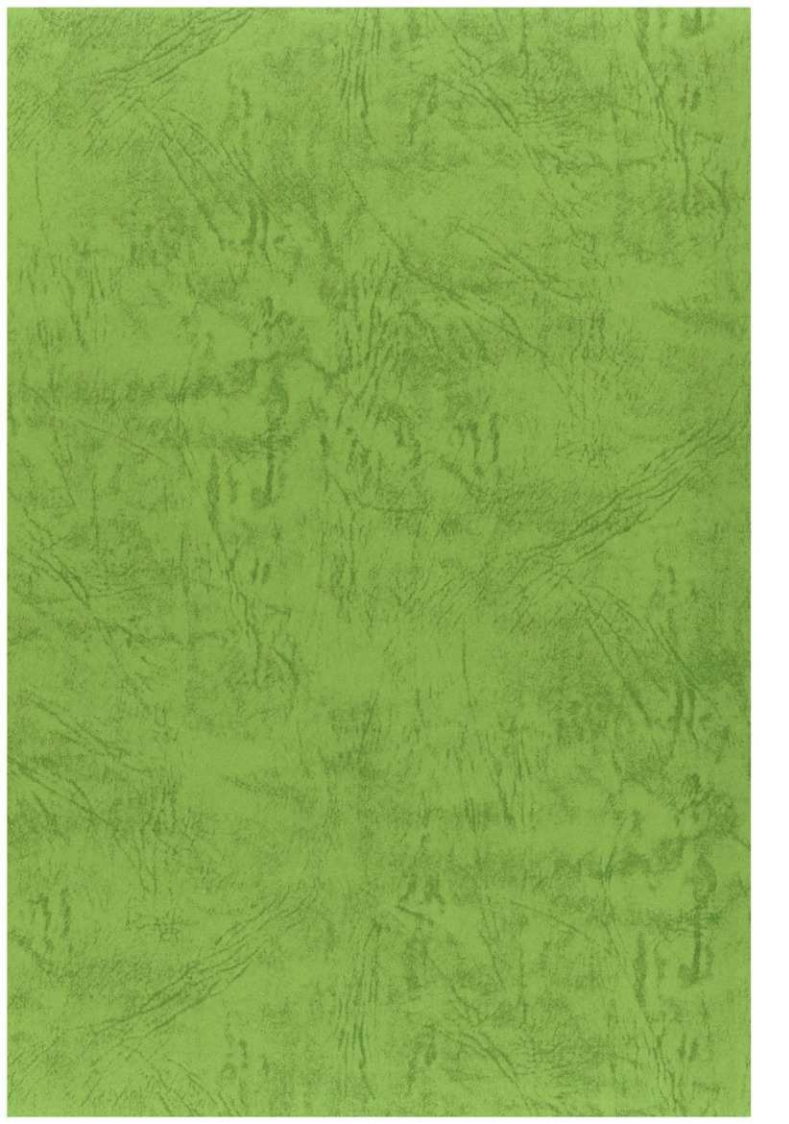
2011年3月25日 発行

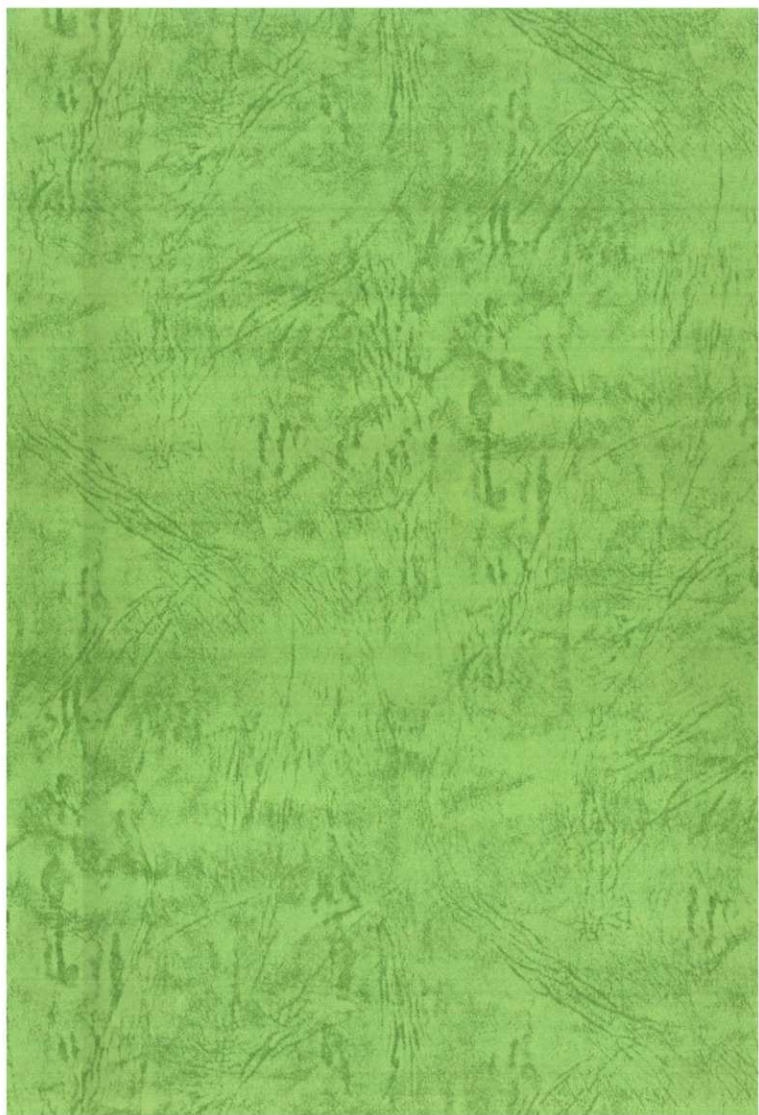
平成21年度発掘調査報告書
福岡町埋蔵文化財調査報告10

著作権 兵庫県神崎郡福岡町南田原3116-1

発行者 福岡町教育委員会

印刷者 クリヤ印刷所





発掘調査成果からは、平成15年度に西治二反田遺跡が図書館建設の際に確認され、弥生時代から中世にかけての遺物が出土し、周辺の微高地状地形に遺跡が広がることが考えられた。

この他には、古墳時代後期的小円墳が円光寺山古墳、円光寺山西古墳、三味谷古墳群として知られているのみで、他の遺跡は知られていない。しかし、南側の高橋区には高橋古墳群や奈良時代の祭祀に伴う遺跡と考えられる榎谷遺跡などが知られており、西治地区を考える上でも意義深いものがある。

ただ、西治二反田遺跡の存在から弥生時代の集落の存在や古代から中世にかけての遺跡の存在はもとより古墳の存在から古墳時代の集落跡も西治地区から発見される可能性は持ち合わせており、今後の調査の進展により新たな史実がわかり得るものと期待される。

○試掘調査概要

調査対象面積は、開発予定面積296,847.61㎡中約157,800㎡となり、その中に186箇所の試掘のための調査区を設けた。1ヶ所あたり約4㎡であることから、調査面積は約744㎡となる。

調査区の概要

平成21年度工事の区域と平成22年度工事の区域を試掘調査した。

調査区1～16は低位氾濫原に位置する場所を調査区Aとし、調査区17～29は段丘面に位置する場所を調査区Bとする。

平成22年度工事の区域の内、道路建設予定地を調査区30～39として低位氾濫原に該当する場所調査区Cとする。

他の平成22年度工事区域については調査区40～187として低位氾濫原の場所を調査区Dとする。

それぞれの調査区をA、B、C、Dと大きく便宜上分類し、それぞれの傾向を示すと共に個々の調査区の概要を示し、最後にまとめとした。

土層について

土層を重視しており、平面の精査が十分に行えていない部分があると、調査担当から聞いている。

○調査区A

低位氾濫原に位置する場所であり、基本的な土層は、耕作土、床土と埋土をささみ下層に砂質土や砂層が堆積している。ここからは、基本的に遺物遺構は確認されなかった。

○調査区B

他の地点より段丘面とやや斜面状に位置し、舌状に伸びる尾根状地形の部分とそれにはさまれるような形になっている谷地形のところも含んでいる。

段丘面は調査区17～21、谷地形は調査区22～29に分けることが出来る。谷状になっているとはいえ、地山面は段丘地形と同様になっており、深さも地山面までは浅い位置で確認できる。基本的な土層は耕作土と床土のすぐ下に地山が広がる。

○調査区C

調査区Cの北東側には西治二反田遺跡が存在し、そこからの流れ込みによる遺物が確認される可能性をもつ場所でもあった。基本的な土層は、耕作土の下層に一部堆積土が確認され氾濫原の堆積へと続く。床土は他の調査区では黄色系の堆積が多いがここでは床土と